



米子市埋蔵文化財センターたより



第41号

2021年6月

博労町遺跡第2次調査

—現地発掘調査終了—



2区で発見された中世の畠跡

令和2年9月末から開始した博労町遺跡第2次調査は、令和3年5月31日で終了しました。本号では、3月の初めから調査を実施した2区の調査成果について紹介します。

2区の調査では、弥生時代終末～古墳時代前期、奈良・平安時代、中世、近世の四時期の層から遺構を検出しました。

弥生時代終末～古墳時代前期の遺構は、竪穴建物跡8棟、井戸4基を検出しました。2区の地形は北東側に向かって高くなっており、この地形の高い部分に竪穴建物跡がつくられていました。また、このうちの1棟からは完全な形をした土器が数点と炭化物が出土していることから、焼失した住居と考えられます。奈良・平安時代の遺構は、掘立柱建物跡2棟、柵列1条を検出しました。第1次調査では、規則的に配置された建物群やこれを区画する柵などが検出され、石帯などの遺物が出土していることから、役所の存在が窺えますが、第2次調査では建物は存在するものの、役所に関わる遺物が出土しておらず、一般的な集落があったと考えられます。

中世の遺構は、調査区の全面にわたって畠跡を検出しました。2区では東西方向にのびる大きな畦によって大きく2つに区画されており、1区の調査成果と合わせると畠跡は大きく3つに区画されていることがわかりました。

近世の遺構は、平行あるいは直交する溝状遺構を検出しました。これらは畠の区画や水路としての性格が考えられます。また、中世の畠跡を区画する東西方向にのびる大きな畦と全く同じ位置で、東西方向にのびる大溝を検出しました。幅が約4mあり、溝の中には杭が数本打ち込まれています。この大溝は、米川から直接用水を引いた幹線水路と考えられます。(高橋)

発掘調査情報

－米子城跡三の丸の確認調査 米蔵あらわる！－

米子市では旧湊山球場内の三の丸遺構確認のための発掘調査を進めております。江戸時代、米子城三の丸には政務を行う施設や米蔵などが置かれていました。

発掘調査では、旧湊山球場のグラウンド面からわずか20 cmほどの所で、江戸時代の建物基礎や排水路などが見つかりました。建物基礎は溝を掘って中に石を詰めて突き固め、上面に平らな石を一直線に敷並べています。この建物基礎は桁行30m、梁行6mで、片側に庇が付けられていたようです。幕末の絵図には、この場所に検出された建物基礎と同規模の米蔵が描かれており、絵図の正確さも裏付けられました。同様の遺構は鳥取城の初蔵跡でも見つかっており、鳥取藩にとって最も重要な、年貢を収める倉庫だったと考えられます。また、現存例としては東伯郡湯梨浜町橋津に藩倉があります。このように、旧湊山球場の下には江戸時代の遺構が良好に保存されていることが判明しました。今後の調査に期待が持てます。(文化振興課 瀨野)



三の丸米蔵建物基礎遺構



橋津の鳥取藩倉建物

整理室たより

百塚88号墳出土遺物の整理

埋蔵文化財センターでは、百塚88号墳の後円部と前方部の間から出土した須恵器の整理を進めています。

出土した須恵器の多くは細かく破砕された状態で見つかっており、水洗、記名、接合の作業を行い、復元作業を進めています。須恵器は比較的接合できるものが多くあり、おおよそ110点ほど接合し実測しています。器種は、坏、高坏、ハソウ、直口壺、甕、横瓶、脚付壺、脚付装飾付壺等があります。

接合復元された須恵器は、報告書掲載等の為に写真撮影する予定です。(小原)

－接合復元作業－



出土須恵器の復元作業

遺跡シリーズ 荒田南川遺跡 (あらたみなみがわいせき)

荒田南川遺跡は西伯郡大山町(旧名和町)名和字富長に所在します。ここは大山北麓の海岸近くの標高15mの名和川とさかさ川の合流点の河岸段丘です。

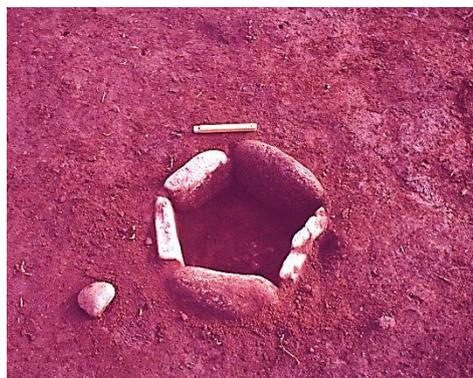
1979(昭和54)年、ほ場整備工事前調査で名和町教育委員会によって発掘調査されました。

遺跡からは、縄文時代から奈良時代の遺物が出土しましたが、主要な遺構は縄文時代後期の住居跡です。住居跡の壁高は不明ですが円形に近いたたきの床面が径4.5メートルの範囲に確認され、中央に5個の石で組まれた石囲炉が検出されています。内部に無文の浅鉢が埋設されていました。

床面からは、波状口縁で磨消縄文を施した精製深鉢や精製浅鉢などの土器片や、黒曜石剥片、敲き石類等が出土しています。

これらの遺物から、この住居跡は福田KⅡ式併行の縄文時代後期前葉の時期と考えられています。

海岸近くの段丘上に短期間営まれた縄文時代の小さな集落があったことを物語っています。(小原)



荒田南川遺跡の石囲炉と土器

コラム 発掘された遺物①

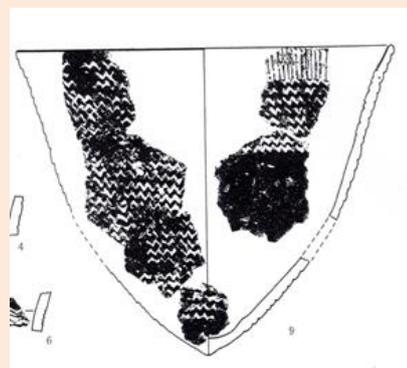
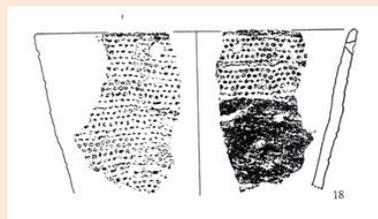
—縄文時代早期の土器—

発掘品の中で、土器は遺跡の時代を判別する遺物として取り扱われます。それは、遺跡から数多く出土することと、時代によって変化し特徴的な形を持つからです。考古学では相対年代の時間軸の基準として土器を編年します。

日本では縄文時代は、土器が出現する1万3千年位前の縄文時代草創期に始まり、早期、前期、中期、後期と移り変わり、2千5百年位前の晩期で終わります。

米子周辺で発見された縄文時代早期の土器は、米子市上福万遺跡から押型文土器が多数検出されており、8千年くらい前のものと考えられています。(小原)

右 上福万遺跡の押型文土器図



センター・資料館日誌

3月27日（土）米子市文化財団フェスタが三の丸広場で行われ「さむらいをやっつけろ」を開催した。

米子城枡形跡と三の丸跡の発掘現場の公開説明会が同時に開催された。



3月29日（月）米子市歴史館運営委員会が開催された。

4月21日（水）上淀白鳳の丘展示館の井上孝芸員が古墳遺物借用で来館。

4月25日（日）向山古墳群や、妻木晩田遺跡を巡る淀江歴史ウォークが開催された。

4月28日（水）尚徳小学校児童の遠足でラリーポイント・トイレ休憩所として来館。

5月20日（木）博労町遺跡の第2次調査地の地元現地説明会を開催し、密にならないよう20～23日の3日間にわたり実施された。



5月31日（月）博労町遺跡の第2次調査の現地発掘作業が終了した。

6月2日（水）福市考古資料館ミニ企画展「昔の匠の技-古鏡・和鏡-」を開始した。



6月13日（日）上淀廃寺跡で彼岸花の植栽会が行われた。



編集後記

梅雨の季節になりましたが、暑い日が続いており、温暖化の影響なのでしょうか。

これから夏に向かって発掘調査が行われる予定ですが、作業中の熱中症が心配です。

発行日 令和3年6月30日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者（一財）米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp